

平成19年12月

高木康伸 学位論文審査要旨

主 査 村 脇 義 和

副主査 大 坪 健 司

同 小 川 敏 英

主論文

Suitable blending method of lipiodol-cisplatin in transcatheter arterial embolization for hepatocellular carcinoma: evaluation of sustained release and accumulation nature

(肝細胞癌に対する経カテーテル的動脈塞栓術におけるシスプラチンとリピオドールの至適混和法：徐放性と集積性の検討)

(著者：高木康伸、神納敏夫、謝花正信、井隼孝司、大坪健司、小川敏英)

平成20年1月 Hepato-Gastroenterology 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は肝細胞癌に対するTAEにおけるシスプラチンの有用な投与方法を検討するために、シスプラチンとリピオドールの混和法に関して、基礎実験でシスプラチンの徐放性を検討した結果をもとに、臨床試験では肝細胞癌へのシスプラチンの腫瘍集積性を検討したものである。その結果、肝細胞癌に対するTAEにおけるシスプラチンの至適混和法は、リピオドールと造影剤の比を7:3としたサスペンション-エマルジョンもしくはエマルジョンであるとの結論を得た。本論文の内容は、肝細胞癌に対するシスプラチンを用いたTAE治療の進歩に大きく寄与するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。